

「コロナでも頑張ったあなたへ！」

現場医師のコロナ最前線情報と日本人芸術家の復活公演

10月10日(日)2時から、アジア協会テキサスセンターにて、日本人会主催のイベントが開催されました。日本人会恒例の秋祭りに代わり、外務省の支援を受けてコロナ最前線情報を中心とした今回のイベントの実施となりました。このイベントは、コロナの影響が大きかったバレエダンサー、音楽家の皆さん、日系レストラン業界への支援も含まれています。

冒頭、日本人会武智会長の挨拶、総領事館佐川首席による福島総領事からのメッセージ代読に続き、斎藤明美さんからヒューストンバレエに所属する日本人ダンサーの紹介がありました。



▲こんなに近くで見ることができました。(加治屋百合子さん)

続いて、今回のイベントのメインテーマであるコロナについての講演が行われました。メディカルセンター勤務の2人のベテラン感染症専門医が、クイズ形式でコロナについての基礎から最新情報までを網羅したお話を楽しくわかりやすく説明してくださいました。

会場の2つの大型スクリーンにパワーポイントのスライドを音響付きで流しながら、まずは子供向けのコロナクイズ。福田先生の問いかけに子供たちは手を挙げて答え、当たると大喜び。そのあと、大人向けのクイズがあり、勝ち

プログラムの最初はバレエです。今回は、ヒューストンバレエ所属のプリンシパル加治屋百合子さんと吉山シャールさんをはじめ総勢6名の日本人ダンサーに参加いただきました。会場は、ダンス用に敷かれたシートの正面に子供達が座り、周りを椅子でぐるりと囲んだ形にし、どんなに高いチケットでもダンサーの足元を見下ろせるほど近くで観ることはできない臨場感で、大変貴重な体験でした。バレエファンはもとより、初めて生のバレエを観た人たちも、ダンサーたちの高度な技術と豊かな芸術性にすっかりくぎ付けになり、何度目大きな喝采が沸き起こりました。

抜いた人たちには景品が手渡されました。それぞれの問題の後に、兒子先生の詳しい解説により、正確な情報を改めて学びなおすことができました。休憩時間には、先生方が個人的な質問コーナーを用意されて、講演では質問できなかった個別の質問をする機会もあり、大変有意義な講演会となりました。(※講演に関する詳しい内容は下段をご覧ください。)

講演会の後は、世界的なピアニストとクラリネット奏者の演奏、ヒューストングランドオペラの指揮者による2名のオペラ歌手の公演があり、最後に日本人女性コーラスグループが浴衣姿で加わって「花は咲く」の美しいハーモニーでイベントは締めくくられました。



▲平田真希子さん(ピアノ) 佐々木麻衣子さん(クラリネット)による演奏

会場のテラスには、いいちこ、アサヒビール、伊藤園の各社試飲コーナーが設けられ、お帰りの際にはヒューストンの有名な日本レストラン4社(鮎陣、Soma、居酒屋WA、旬)から特製弁当が配られました。



今回は、コロナの状況を考慮し、会場への参加は先着申し込み順250名様に限定させていただきましたが、ウェブサイトでの生配信も行いう事によって、ヒューストンだけでなくテキサス各都市、日本からもイベントを楽しんでいただきました。(グレーターヒューストン日本人会)

- 〈出演者〉
- ◆日本人ダンサー: 加治屋百合子さん (Principal)、吉山シャールさん (Principal)、加藤凌さん (Soloist)、藤原青依さん (Demi Soloist)、福田有美子さん (Demi Soloist)、アクリ士門さん (Corps De Ballet)
 - ◆日本人感染症専門医: 兒子真之先生(テキサス州立大学ヒューストン校感染症科)、福田由梨子先生(ペイラー医科大学感染症科)
 - ◆音楽家: 平田真希子さん(ソロピアニスト、ジュリアード・ライス大学博士号)、佐々木麻衣子さん(ソロクラリネット、ライス大学博士号)、戸田光彦さん(指揮者、東京音楽大、ヒューストングランドオペラ所属)、ヒューストンコーラスグループ「さくら」

新型コロナウイルス デルタ株とワクチン

日本人会のイベントでは、子供向け、大人向けのコロナのクイズをしながら学んでいきました。子供向けクイズをほぼ全員の子供が全問正解し大人向けクイズにも参加となり、もっと難しいクイズにするべきだった!と後悔する一方、子供さんたちが正しい知識をきちんと身につけていることをうれしく思いました。今回は、皆さんの興味がありそうな分野を中心に説明させて頂きたいと思います。

デルタ株出現に伴うコロナの再流行

2020年12月にワクチンの接種が始まってから、当時大きなピークを迎えていたコロナも減少し、CDCもワクチン接種完了者の行動制限を緩和するようになりました。人々も制限緩和を喜び、街は活発化し雰囲気が明るくなりました。一方、CDCが行動制限を緩和したのはワクチン接種完了者のみであり、ワクチン接種完了者が実際はまだ半分くらいだったのにも関わらず、店では誰もマスクをしていないというように、接種・未接種に関係なく大多数の人の行動パターン、コロナに対する警戒心が変わってしまったのも事実です。人々が解放感に浸っている間に、デルタ株は瞬間に存在感を主張し(=6月初旬はアメリカのコロナウィルスの10%程度しか占めていなかったのに、7月下旬には90%以上を占めるようになった)、再流行となってしまう。医療従事者間で、「マスクをしない人、ワクチンを接種しない人のせいでまた流行しているのに、何故私達が大変な思いをしなればいけないのか。」と投げやりな雰囲気が漂ったのも一瞬で、次々と一般病棟、ICUがコロ

ナ専用病棟、ICUに転換されていき、コロナの患者さんの診療に追われるようになりました。

デルタ株

もともとある従来株に対し、突然変異が起きたあとにできた子孫を変異株といいます。新型コロナウイルス変異株は当初「イギリス型」など発見された場所の名前が付けられていたのですが、誤解や偏見を避けるためにギリシャ語のアルファベットで呼ばれるようになりました。

デルタ株はインドから世界中に瞬く間に広がり、2021年5月11日にWHOが「注意すべき変異株」と位置付けました。従来株と比べると約2倍伝染性があり、潜伏期間(感染してから症状がでるまでの期間)も従来株より約2日短く、ワクチン未接種の方が圧倒的に感染しやすいと言われています。

(図1)

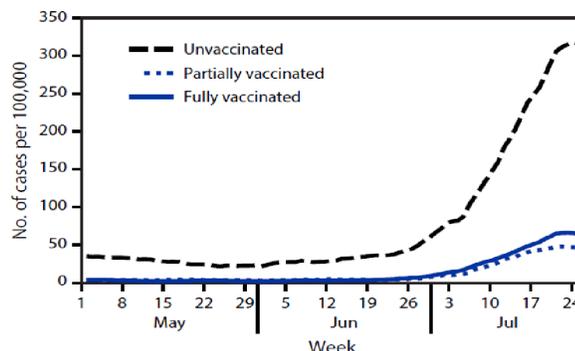


図1 ロサンゼルスにおけるワクチン接種者、未接種者グループの人口10万人当たりの感染者数の推移

参照先: MMWR Morb Mortal Wkly Rep. 2021 Aug 27;70(34):1170-1176.